

# 平成28年度 新発田・北蒲生活科部 活動報告

部長 澤口 佑美子

## 1 研究主題

自分の思いをもち、生き生きと活動する子どもの育成

## 2 研究の概要

子どもたちが生き生きと活動する姿、活動を通して気付いたことを素直に表現する姿を目指して研究を行った。また、授業研究に向けて講演会を実施した。

## 3 研究の実際

4月 研修テーマ・活動計画の立案

6月 講演会「気付きの質を高める単元作りについて」

講師：新発田市立二葉小学校 教頭 土田 利康 様

11月 研究授業 第2学年 単元名「作ったあそびをつたえよう」

授業者：新発田市立二葉小学校 小柳 政喜 教諭

指導者：新潟青陵大学 教授 岩崎 保之 様

○本時のねらい

前時の振り返りをもとに、学級やグループで「1年生にとって」「もっと楽しい」おもちゃの広場にするための考えを出し合いながら、計画を練り直したり、おもちゃや遊びの工夫を考えたりすることができる。

○本時の展開

1年生を招待した『おもちゃの広場』の振り返りを行った。上手くいった点・困った点を一覧表で提示し、全体に関わることについての改善策を話し合った。

次に、おもちゃごとのグループで、ワークシートを用いながら話し合いを視覚化したり、実際のおもちゃで考えた工夫を試したりしながら改善策を考えた。



## 4 成果と課題

### (1) 講演会

○子どもたちの「気付き」の質を、どのような働きかけを行って高めていけばよいのか、これまでの実践を紹介していただきながら具体的に学ぶことができた。

○第3回の研究授業の単元づくりを行った。具体的な活動や子どもの姿を想定してグループ演習を行ったことで、講話の内容をより深く理解できる研修の場となった。

### (2) 授業研究

○授業者の指導のあり方、学級の雰囲気、人間関係が良く、学習の素地ができています。

○導入部で、児童の振り返りを一覧表で提示したことは有効だった。視覚化されたことで解決すべき課題が明確になり、意欲向上にも繋がった。

△グループの話し合いは、活動が多く組まれていたことで時間が不足し、課題が焦点化できていなかった。

#### 【代案】

- ・「1番の改善策は何か」を問うことで課題を焦点化する。
- ・各グループの困り感に合った資料・手立てを考えておく。
- ・前時で困り感の共有はしておき、本時はグループでの話し合いに焦点化する。
- ・おもちゃ作りをどこまでにするか明確にし、困り感と結びつく工夫を考えさせる。



#### ご指導

- ・生活科は、体験活動と表現活動を往来しながら、相手意識や目的意識に支えられることで主体的な学びが実現できる。本時においては、児童の自己効力感を高めつつ、「1年生をもっと楽しませたい」という思いや願いをどのように醸成するか」が要となった。
- ・ファシリテーションが有効に働く場面や、ルールなどについて教えていただいた。